▲　今が見ごろのお花畑　　（5月21日撮影　九重花高原）

慧光

金光寺寺報
第２６３号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎ ０９８２
８３－２３３８

今月のことば　法語カレンダー

信は　如来の生命なり

小山法城（こやまほうじょう）

宗教で示される「信」は、一般的に私たちの持つ信仰心と考えることができます。しかし、ここではその「信」が「如来の生命」と示されています。私の「信」が「阿弥陀如来の生命」であるとは、どういうことなのでしょうか。

この言葉は、浄土真宗を開かれた親鸞聖人が示された「他力の信心」を明らかにしたものです。「他力」とは、「阿弥陀如来の本願にもとづく救いの力」という意味で、「本願」とは、阿弥陀如来の慈悲の願いです。

浄土真宗の信心とは、「阿弥陀如来の側に私を信じさせるだけの力がある」ことによって、私が「信じずにはいられない」ようになった心です。阿弥陀如来のはたらきのおかげで生じた信ですので、これを「他力の信心」といいます。そこには、決して捨てられることがないという、あたたかな安心が伴っています。

軒先の下（うが）にある石が雨水によって長い期間をかけて穿（うが）たれていくように、阿弥陀如来が私たちを救おうとされる活動は、ついに私たちの心に到達してくださいます。私たちの立場からいえば、阿弥陀如来のお心を真剣にお聴聞（ちょうもん）することを通して、阿弥陀如来に対する頑（かたく）なな疑いの殻（から）が破られていくのです。それは、たとえば学校の先生や親の真心が、ついに子どもの心に届く姿に似ているといえるでしょう。信心とは、阿弥陀如来のはたらきが、そのまま私たちの心に届いたすがたであり、阿弥陀如来が私たちの心を場として躍動しているすがただといえます。それを「信は如来の生命なり」と表現されているのです。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事はお受けできません。ご協力をお願いします。

◎　６月

１９日　（終日）
２８日～２９日（終日）

５月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。
謹んでお悔やみ申し上げます。
２０２３年　５月１５日満８８歳
馬見原　西田　今朝一　様
２０２３年　５月１９日満７１歳
揚　興　梠　恒　文　様
２０２３年　５月２８日満９４歳
矢惣園　由良田　信　久　様

鞍岡の５月の天候　（アメダス）
最低気温・　３．５℃（　９日）
最高気温・２９．５℃（１７日）
夏日日数・　１０日/３１日
真夏日日数・　０日/３１日
月間総雨量・174.5mm(降雨日数・11日)
一日最大雨量・５４．０mm（３１日）

ホームページ開いています。
URL　https://konkouji.jp/
６月７日現在アクセス数　143,371人

金光寺のひと月

五月

三日　当山前坊守釋妙順　月忌
四日　渡邊綱義様　二十五回忌
古小路ひさ様　五十回忌
古小路タツエ様　三回忌
田中ヒデ様　十七回忌
六日　森岡多一様　七回忌
森岡喜代様　七回忌
七日　西村セツ子様　満中陰、納骨
川崎サエ様　十七回忌
甲斐寛志様　三十三回忌
八日　霜田友則様　二・七日忌
九日　親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃法要
高千穂組団体参拝
（十一日まで）
十二日　青井加江様　七回忌
下地真美様　十七回忌
十三日　渡邊凡子様　還骨・納骨
十四日　木村農利男様　十三回忌
岡村イツ子様　三回忌
十五日　霜田友則様　三・七日忌
十六日　親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃法要
宮崎教区組長会団体参拝
（十七日まで）
十八日　当山前住職釋依章　月忌
後藤ヌイ子様　満中陰
十九日　興梠恒文様　臨終勤行
二十日　興梠恒文様　通夜
二十一日　吉村元明家　墓地改葬
長澤マツエ様　三十三回忌
森田雪子様　三回忌
森田廣美様　三十三回忌
二十二日　興梠恒文様　葬儀、火葬
興梠恒文様　還骨
興梠恒文様　初・七日忌
霜田友則様　四・七日忌
二十四日　興梠恒文様　礼参り
白瀧正昭様　三回忌
二十五日　藤本行義様　十七回忌
二十七日　綾　カズ子様　満中陰
二十八日　由良田信久様　臨終勤行
西田今朝一様　二・七日忌
二十九日　橋本政子様　一周忌
橋本　実様　一周忌
橋本達郎様　十七回忌
霜田友則様　五・七日忌
三十日　由良田信久様　通夜
由良田信久様　葬儀、火葬
由良田信久様　還骨
由良田信久様　初・七日忌
三十一日　由良田信久様　礼参り

住職ひとりごと

五月九日から十二日まで高千穂組団体参拝で宮崎教区の教区長会に参拝した。本山慶讃法要の千足団体参拝に長崎県の聖人ご旧跡を回りました。

新型コロナ感染症の五類移行後、初の慶讃法要でお会いした皆様方の内訳は、不思議なご縁で、国府別院の葉末組の参拝者が三十名、熊本県の親鸞聖人ご縁の地を巡る団体参拝が二十名、合計五十名でした。

千穂高校の教職員の方々の参拝は、ご縁の深い方々と、お会いする面白さを感じました。

泊まりの参拝は、三日目の高千穂神社の参拝と、一日目の夜の懇親会が、参加者の赤の他人から、同じ目的を持った仲間へと変化する場でもあり、素晴らしいものでした。

ご縁の有り難さを感じた、三日間でした。

（住職　松井卓郎）